

2019 年度 SEND タイ シラバス

教員：立山博邦（教育開発・学修支援センター）

E-mail: hirokuni@apu.ac.jp

研究室：B 棟 427

オフィスアワー：水曜 3 限

授業のねらい

SEND とは、「Student Exchange - Nippon Discovery」の略語で、「日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的の一つとして位置づけ、将来、日本と ASEAN との懸け橋となるエキスパート人材の育成を目指す事業」（文部科学省）である。本学では、SEND を海外教育インターンシップとして位置づけ、このプログラムのもと、夏季にタイの高等学校に学生を派遣している。

このプログラムは、インターンシップの効果を高め、それをその後の学生生活または卒業後のキャリアに有機的につなげるために、事前授業・実習・事後授業の 3 部構成をとっている。事前授業では、現地での生活に適応し、現地の人々とコミュニケーションを円滑に行うために異文化コミュニケーション能力の向上を図る。また、現地の文化理解を深め、日本語指導支援や日本文化の紹介活動を円滑に行うために、派遣先国についての学習、日本語・日本文化の授業計画書作成や模擬授業を行う。さらに、自己成長を促進するために、自分の伸ばしたい能力を明確にしたうえで目標を設定する。実習では、毎日リフレクティブジャーナルを通して内省的な考察を行い、他者と自己および他文化と自文化に対する理解を深め、自分の活動を振り返り自己成長につなげる。また、他の学生のリフレクティブジャーナルを読み、コメントすることにより、お互いの学びを共有し、支え合い、高め合う「学びのコミュニティー」を形成する。事後授業では、現地での学びや葛藤、どのように能力を伸ばしたのかについて共有することにより、それぞれの経験を今後どう使い、伝え、活かしていくのか話し合い、次への挑戦につなげる。

学習目標

自己成長

1. 学びの目標や自己成長の目標を立て、それらを達成することにより、今後の課題を見つける。
2. リフレクティブジャーナルを通して内省的考察ができるようになり、経験を翌日や将来のための学び、そして自己成長のために活かすことができる。

授業運営及びティーチングスキル

3. 日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、それらの理解を深める。
4. 日本語や日本文化について英語で教えることができる。
5. 授業や課外活動を計画し、実施することができる。

貢献力

6. 現地で何が必要とされているのかを見つけ、貢献することができる。
7. どのように自分が人の役に立つことができるのかを考え、行動することができる。
8. 他の学生が書いたリフレクティブジャーナルを読み、コメントすることにより、他の学生の役に立つとともに、自己の成長につなげることができる。

異文化交流と理解、批判的思考

9. 授業・課外活動・地域交流イベント等に参加して、現地の人々との交流を深める。
10. 事前準備と実習を通じて、派遣先国の言語や文化に対する理解を深める。
11. 異文化を受け入れ、理解を深めながら能動的に他者と関わるようになる。
12. 異文化コミュニケーションの理論を異文化環境で応用・実践することにより、理論の理解を深め、批判的に考察することができる。

責任感

13. APU の代表、さらには日本の代表という心づもりで、自分の行動に責任を持つことができる。
14. 物事がうまく行かなかった場合、環境や周りの人のせいにするのではなく、どこがうまく行かなかったのか、課題を見つけることができる。

問題発見・問題解決能力

15. 誤解や衝突が起こったり、困難な状況に陥ったりした際、要因や問題点を探り、倫理的・論理的・文化的観点からの確な解決策を提案できる。
16. 自ら課題や問題を発見し、多角的視点からそれらを分析できる。

他者への影響力・コミュニケーション力

17. 自分の経験を他の学生に効果的に伝え、SEND コミュニティーを広げることができる。

学生への要望事項

実習を通じて、現地の人と友情を育み、困難をチャンスと受け止め、派遣先国の理解を深めてください。体調管理を心がけ、柔軟な態度と広い心を持って実習に臨み、学んだことをこれから自分が歩んでゆく人生の指針に加えられるよう、積極的に責任を持って行動してください。

注意事項

- すべての授業に参加すること。やむを得ず授業を休む場合（減点）は、必ず事前に教員に連絡すること。休んだ授業の内容は、必ず他の学生に確認すること。
- 授業中のスマートフォンの使用は一切認めません。

テキスト

『タイを知るための72章』【第2版】綾部真雄（編著）2014年 明石書店

成績評価方法

出席・参加（授業14回&実習）	10%
リフレクティブジャーナル&コメント	30%
プレゼンテーション（3回）	25%
実習評価	10%
リサーチ課題	10%
振り返りレポート	10%
ルーブリック課題・その他の提出物	5%

課題

- ルーブリック課題①～⑤
→自分の伸ばしたい能力を明確にしたうえで目標を設定し、それを達成できたかどうか評価する。
- リフレクティブジャーナル&コメント
→事前授業期間（週1回）と実習期間（平日および週末）に振り返りを書く。また、他の学生（1回につき少なくとも2人）の振り返りを読んでコメントを書く。
- タイに関する学習発表
→担当テーマについてテキストを読み、調べたことを発表（10分）する。
- 日本語・日本文化の模擬授業
→ペアで模擬授業（15分）を行う。
- 最終発表（現地）
→実習での学びについて英語で発表（5分）する。
- タイに関する振り返りレポート
→プログラム全体を振り返り、学んだことを今後につなげる。

授業スケジュール

回	日時	授業内容	課題（すべて manaba で提出）
事前授業			
1	5/15(水) 6限	<ul style="list-style-type: none">● アイスブレイキング● プログラム概要について● ルーブリックについて● タイに関する学習テーマの割り当て	

2	5/22(水) 5限	● リフレクティブジャーナルについて	自己紹介ー正午締切 ループリック課題①ー正午締切
3	6/5(水) 4限	● タイに関する学習発表Ⅰ	リフレクティブジャーナル①ー正午締切 ループリック課題②ー正午締切
4	6/5(水) 5限	● タイに関する学習発表Ⅱ	
5	6/12(水) 4限	● タイに関するリサーチについて ● 日本語・日本文化の授業について	リフレクティブジャーナル②ー正午締切
6	6/12(水) 5限	● 異文化コミュニケーションⅠ	
7	6/19(水) 4限	● 異文化コミュニケーションⅡ	リフレクティブジャーナル③ー正午締切 リサーチ課題①ー正午締切
8	6/19(水) 5限	● 異文化コミュニケーションⅢ	
9	6/26(水) 4限	● SEND 先輩学生&タイ出身学生との 懇談会 ● タイ語プチ講座	リフレクティブジャーナル④ー正午締切
10	7/3(水) 4限	● 日本語・日本文化の模擬授業Ⅰ(ペア)	ループリック課題③ー正午締切
11	7/3(水) 5限	● 日本語・日本文化の模擬授業Ⅱ(ペア)	
12	7/17(水) 5限	● マインドマップによる自己分析&目 標設定	リフレクティブジャーナル⑤ー正午締切 ループリック課題④ー正午締切 リサーチ課題②ー正午締切
ペアと授業準備 7/18(木)～8/14(水) ※必要に応じて個別面談			
実習 8/15(木)日本発～9/14(土)日本着			
事後授業			
13	10/9(水) 4限	● 振り返りⅠ	ループリック課題⑤ー10/6(日)23:59 締切
14	10/9(水) 5限	● 振り返りⅡ	